

簡単なハザードマップ等構築手法について

About Simple Hazard Map Construction Technique

岩場 貴司
RITS 総合研究所
安田 明生
東京海洋大学

Abstract: There is refuge information as one of high information of necessity knowing beforehand for disaster others emergency. However, I tried inspection whether it was not possible for the structure which could easily communalize the information in the whole school and area on Internet to a base with a raster map of 1/25,000 reduced scales that means to communalize was established, and this refuge information took warning by the citizen's whole in the situation unexpectedly, and this time Geographical Survey Institute published.

Keyword:ハザードマップ (hazard map)、避難所 (refuge)、情報公開 (Information disclosure) 地域情報の共有化 (Communalization of local information)

1.はじめに

“災害対策” “防災” “ハザードマップ” といった具体的取組が昨今活発化している。こうした中で、地図情報を用いてより簡単によりわかりやすくより低コストでハザードマップ・防災地図を構築することはできないものであろうか。と考え具体的に取り組んでみることにした。

まず地図の選択については、全国の自治体が分け隔てなく使える地図であること、コストがかからないことに重点を置いて国土地理院の1/25,000を採択し、地図を接続する加工についてはいままでのGIS技術の蓄積から歪を補正して一面のデータに構築した。もっとも大きな問題であったのがインターネット上で表示する描画エンジンである。

既にWEB-GISとよばれるいくつかのエンジンが存在するが、開発に伴うコストが大きい点・地図がラスターである点から全く方式の違う表示エンジンを採択する必要があった。

そんな中で、iBrandというASPの画像配信の仕組みを用いて実現できないのもか早速実験してみることにした。